

こんにちは 松坂みち子 です

日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.346 2017.12.13 連絡先 402-1622 >



「利用者本位」のサービス提供を 介護保険について・一般質問

介護保険制度は3年ごとに計画が作られ、2018年4月から第7期となります。現在計画が策定されているところで、基本的な考えなど聞きました。

介護保険料の見通しについては、高齢者の負担は限界にきていると訴え据え置きを求めましたが、答弁では「第1号被保険者（65才以上）の負担割合が22%から23%に増える」というのみで、明言はしませんでした。また、介護保険料の減免制度の拡充を求めました。

市は第7期において「自立支援・重度化防止」を基本的考えのひとつとしており、そのこと自体は必要なことです。しかし、「自立」にばかり目を向けてしまうと、利用者が必要なサービスを利用できなくなるのではないかと危惧されます。

市はケアマネジャーの作るケアプランをチェックしています。介護サービスはケアプランをもとに提供されることから、

プランの変更を強く求めることはないか、「自立」を押し付けるようなことはないか、問いました。市は「プランの変更を強く求めるものではない」「利用者本人が理解したうえで必要なサービスを利用するものであり押し付けるものではない」と答弁。利用者本位のサービス提供を求めました。

市の財政状況を示す指標として「実質公債費比率」「将来負担比率（将来の借金返済の負担を示す）」があります。市では平成18年度から借金の合計額は増え続けているにもかかわらず「将来負担比率」が改善されている（負担が減る）としているため、その理由を聞きました。計算方法に明確な根拠がないからではないでしょうか。このような方法で算出される指標のみを判断材料にしては、借金の将来負担を見誤るのではないかと指摘しました。



ら持ののばをてる核のの事
れたたか、像、を聞いてる国兵器務
ま感ない、人、想、聞いてる国兵器務
せじない、間の、像、聞いてる国兵器務
ずいのか、の、も、聞いてる国兵器務
にの、の、の、も、聞いてる国兵器務
はか、の、の、も、聞いてる国兵器務
い怒の、の、の、も、聞いてる国兵器務
はとを、の、の、も、聞いてる国兵器務
い怒の、の、の、も、聞いてる国兵器務
はとを、の、の、も、聞いてる国兵器務



みち子のひとりごと ノーベル平和賞

「核兵器の物語には終わりがある。どのような終わり方を迎えるかは、われわれ次第だ。核兵器の終わりか、それとも、われわれの終わりか」「すべての国に対し、われわれの終わりではなく、核兵器の終わりを選ぶように呼びかける」ICANNの事務局長が語った言葉です。核兵器禁止条約に背を向けている国を代表する人たちの耳に届いているのでしょうか。これらの話を聞いても、何も感じないとすれば、想像力がないのか、人間の心を持たないのかと怒りを感じずにはいられません。

「広島と長崎で亡くなったすべての人々の存在を感じてほしい。彼らの死を無駄にしてはなりません」「ヒバクシャは72年にわたり、禁止を待ち望んできました。これを核兵器の終わりの始まりにしましょう」ノーベル平和賞授賞式で、13歳で被ばくし今はカナダにすむサロー節子さんが語った言葉です。

公共交通の充実が必要

中村朝人市議の一般質問

中村議員は、運転免許証の返納など高齢化社会が進行するなか公共交通機関の重要性がますます高まっていることを強調。一方、今年も和歌山市内でバス路線が二つ廃止されるなど年を追うごとに廃止路線が広がってことや、岐阜市ではコミュニティバスや路線バスの維持に3億円の予算を確保しているのに対し、和歌山市は1900万円にとどまっていることを指摘し、行政が主体となった公共交通機関の充実を求めました。

尾花市長は「安心、安全な公共交通ネットワークを構築し、市民の移動手段を確保、維持していく」と答弁。森総務局長は「デマンド型乗り合いタクシーの実証運行調査を実施し制度の確立に向けて作業を進めている」と報告しました。

また、南海和歌山市駅周辺のまちづくりについて有馬産業まちづくり局長は「さまざまな形で街づくりの支援につとめる」としました。

指定管理の改善を

姫田高宏市議の質問

姫田市議は、ミスグループが指定管理している「つつじヶ丘テニスコート」について、市のスカイタウン分譲地の販売計画が失敗するなか、小中学校予定地が遊休地化し20面のテニスコートをつくったと経過を説明。そのテニスコートを年間5400万円の管理運営委託料と2700万円の使用料を指定管理者の収入とする大盤振る舞いや、1件20万円未満という指定管理の修繕費負担について「割合が低すぎる」など批判し、指定管理のあり方をただしました。

尾花市長は、「指定管理者の自主的な経営努力を促し、効率的な施設の管理運営に勤めていく必要がある」としました。

また期日前移動投票所の設置について市長は「必要性も含め、選挙管理委員会と十分協議していく」と答弁しました。

大門エッセイ

日本共産党参議院議員

名前を変えないで



選挙で後退するたびに支持者の皆さんから、「党名を変えたらどうか」という善意の意見が寄せられます。

共産党という名前は、いずれ資本主義社会をのりこえて真に人間が豊かにくらす未来社会（社会主義・共産主義）をめざすという党の綱領にもとづくものです。綱領をそのままにして党名だけ「〇〇党」に変えても、（共産党）とカッコ付きで呼ばれ続けるだけでしょ。

綱領があるからこそ日本共産党の存在意義があります。当面の政策が的確であり姿勢がぶれないのも綱領という屋台骨がしっかりしているからです。綱領をふくめ日本共産党の姿をまるごと知ってもらおう努力がもっと必要だと

痛感しています。

かつて国会で論戦相手だった竹中平蔵氏（元・経済財政担当大臣）は、新自由主義派の経済学者でしたが、資本論やわが党の綱領にも詳しく、立場は一八〇度違ってても日本共産党に一定のリスpekt（尊敬）を抱いていた人でした。

ある時、私に「日本の政党は自民党の改革派（新自由主義派）と共産党だけでいい。あとは中途半端な連中だ」と語ったことがあります。資本主義を未来永劫に続くものとして全面的に肯定する新自由主義と、資本主義はのりこえられると考えるわが党の綱領路線の対決こそ本物の対決軸だという意味でした。

いまや学者というよりビジネスマンと化した竹中氏ですが、それだけに、聞けば、「共産党だけは共産党のままできてほしい」といつてくれるのではないかと思います。

相談、困りごと、お問合せはお気軽に
生活相談所
402・6222（平日午前中）
松坂携帯
090・1702・7310